



展覧会「秀長と郡山のあゆみ」を開催 ～大河ドラマの放送を契機にもっと大和郡山を知ろう～

■大河ドラマ「豊臣兄弟！」

今年1月からNHKで放送中の大河ドラマ「豊臣兄弟！」をご覧になりましたか。

同ドラマの主人公は天下人の弟・豊臣秀長で、「秀長が長生きしていれば、豊臣家の天下は安泰だった」とまでいわしめた天下一の補佐役・秀長の目線で戦国時代をダイナミックに描くものです。

本稿では、大河ドラマをきっかけに秀長ゆかりの地である大和郡山を盛り上げるための取組みについてご紹介します。

■展覧会「秀長と郡山のあゆみ」

考古資料を通じて居城となった郡山城築城の実態に迫り秀長の足跡を追うとともに、その舞台となった地域が歩んだ歴史を振り返り、秀長が大和郡山に遺した遺産を顕彰しています。

【展示品】（予定、写真は和和郡山市提供）



天守台から出土した
金箔押しの飾瓦



天守台石垣の転用石仏
ほか

【開催場所】

東多聞櫓内ギャラリー
大和郡山市城内町 253-2（史跡郡山城跡内）

【開催期間】

令和8年1月22日（木）～令和9年1月31日（日）
※年末年始除き原則無休
（「大河ドラマ館」休館日は休館）

【開催時間】

午前10時～午後5時（最終入場午後4時30分）

【入館料】

大人 300 円
※小学生以下、市内中学生、市内在住または市内に所在する高校に通学する高校生は無料

■地域の盛り上がり

大和郡山を訪れる観光客や市民に秀長をより身近に感じてもらうために、大和郡山ライオンズクラブが市に全長 174.8cm 横幅 68.4cm の樹脂製の秀長像を寄贈。像は、「DMG MORI やまと郡山城ホール」内に設置されています。同ホールの展示室では秀長さんプロジェクト推進協議会主催の「豊臣兄弟！ 大和郡山 大河ドラマ館」が今年3月2日より開館します。また、郡山城跡では、同市や公益財団法人「郡山城史跡・柳沢文庫保存会」が、城跡内の補修工事などを行ったほか、近鉄は最寄り駅の近鉄郡山駅舎の外屋根部分に豊臣家の桐の家紋を藍色で染め抜いた装飾やのぼりなどを立てて地域の盛り上げを図っています。

■箱本十三町

同市は「金魚の町」として全国的に知られていますが、「箱本十三町」はあまり知られていません。

天正13（1585）年9月に秀長が郡山城に入り、城郭を豊臣政権による畿内統治の拠点の一つとして大規模に整備しました。また、城下町繁栄のため、地租免除や商売上の特権を与え奈良や堺の商人たちを募り、商工種別を基本とした「箱本十三町」の基礎を造りました。

城下町は13町の当番制の自治で運営され、当番となった町は、特許状の入った朱印箱を置き「箱本」と染め抜いた小旗を立てて、城下町全体に係わる警護や火事対応の役割を1か月間担い、その後、近代都市へと発展する礎となりました。

現在の町は、姿や形が変わりましたが、今も町名のほとんどが「箱本十三町」の時代を偲ばせるものです。ぜひ、郡山城や展覧会等を見学した際は、町を散策してください。（岡村俊幸）

【展覧会お問い合わせ先】

大和郡山市役所
まちづくり戦略課 文化財保存活用係
〒639-1198 大和郡山市北郡山町 248-4
TEL：0743-53-1151（内線 733）